

伝えよう読書のよろこび 広げよう感動の輪



編集・発行 愛媛県読書グループ連絡協議会

第111回

全国図書館大会愛媛大会



図書館が 彩る未来 伊予路から
令和7年10月30日(木)・31日(金)



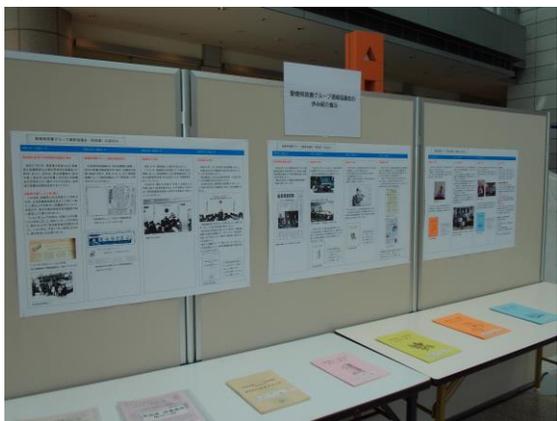
令和7年10月30日、31日の2日間にわたり、全国図書館大会愛媛大会が開催されました。

1日目の記念講演(トークセッション)では、愛媛県出身でさまざまな分野で文筆活動をされている3名の方(白川密成氏・高橋久美子氏・田丸雅智氏)に、それぞれの活動をはじめ、子どものころからの読書や図書館の体験、書くことや本をつくることへの想いなどについて語っていただき、これからの図書館に対する期待を伺いました。2日目の分科会では、公共図書館・大学図書館・学校図書館などの分野ごとに分かれ、深く意見を交わし合いました。

会場からは拍手もあがり、非常に盛り上がった講演会でした!



トークセッションの様子



県読連の歩みについての展示

1日目の全体会では、会場の県民文化会館1階県民プラザで県読連のこれまでの歩みについてパネル展示を実施しました。

パネルの表側には、県読連の歩みについて揭示し、昭和39年に団体が発足して以来の主な出来事をピックアップして紹介しました。また、創立20年記念誌を皮切りに10年ごとに発行している記念誌や『読書通信』の創刊号(平成18年6月発行)から最新の42号(令和6年9月発行)まで全てをまとめたファイルを、実際に手に取っていただけるように展示しました。

パネルの裏側には、県読連の役員や会員の皆様からお寄せいただいたメッセージを、東・中・南予別に揭示しました。全部で93名の県読連や読書に対する温かいメッセージを、大会参加者の皆様も熱心にご覧になっていました。

当日は、会員の方々をはじめ、たくさんの方に展示をご覧いただきました。メッセージをご寄稿いただいた皆様、お立ち寄りいただきました皆様、ありがとうございました!(事務局)



メッセージの展示



ふ と ん か い す い よ く

あれは1993年。私は北京の本屋で、なじみの『論語』を立ち読みしていた。横書きである。反語・疑問に「？」詠嘆に「！」驚いた。簡体字には慣れていたが、どんどん西洋化している。そのころは市街地に、黒塗りのアウディしか走っていなかった。自転車天国だった。その後、携帯電話が普及していった。電話線を有線で国土にひいてなかったのが幸いした。PHS全盛の日本に比べると、ずっと早くノキアが流行っていた。

私は漢字が好きだ。漢字を捨てた文化圏は廃れると本気で思っている。授業で「ひらがなは漢字の草書。カタカナは漢字の一部」と説明すると、生徒は驚く。大学生のころ漢文を訓読していると、中国からきた留学生に「よくそんな古くさい書物が読めるね」と笑われた。

しかし、漢字の成り立ちに興味はない。漢字で物事をとらえることに興味がある。「思う」なのか「想う」なのか。「作る」なのか「創る」なのか。「書く」なのか「描く」なのか。物事のとらえ方を選択することができる。漢字はscanするだけでreadできる。

これはすべて書物から学んだものである。インプットしたことをアウトプットすることによってフィードバックしている。「読む」と「書く」の往還である。そんな楽しみを満たしてくれるのが図書館である。内田樹は『図書館には人がいないほうがいい』と言う。その著書の中で「たぶん人がいない、静まり返った空間でないと書物が人間に向かってシグナルを送ってくるという不思議な出来事が起きにくいからだ」「図書館は人々の『学び』への欲望に点火する貴重な知的装置である」と。蓋し名言。

愛媛県読書グループ連絡協議会 顧問
愛媛県立図書館長 松岡 徹

「読むこと 書くこと 生きること」

「読むことは人を豊かにし、話すことは人を機敏にし、書くことは人を確かにする」とは、イギリスの哲学者フランシス・ベーコンの言葉です。

第111回全国図書館大会愛媛大会の記念講演は、その「読むこと 書くこと 生きること」ということが演題のトークセッションでした。

さまざまな分野で文筆活動をされている講師の方々が子どもの頃の読書体験を語られる中、読むことで著者と出会え、また書くことによって読みが深められ思考力や発想力が培われたという話を聞きながら、書くことの大切さに気づいた読書会での出来事を思い出しました。

当時、「筆端で読む」即ち書くことによって読みが深まるという言葉に出会い、成程と思いつつも書くまでには至りませんでした。県読連大会で「読むこと・書くこと・生きること」という映画を見て、読むことの深まりは書くことによって、そしてそれが自分を見つめ自分の生き方が充実していくことだと感銘し、読書会の記録や文集を残そうと書くことが始まったのです。

そして「読書は、実践への最も深い原動力である」(森信三)に導かれ、人として当たり前なのがきちんと出来るようにと、心を正してまいりました。

微々たる力ではありますが、読書活動が次代の読書人を育てる一助になり少しでも読書の輪が広がればと願っております。

愛媛県読書グループ連絡協議会
会長 森川 啓子



～「県読連」とは～

- 名称：愛媛県読書グループ連絡協議会
- 発足：1964年(昭和39年)12月
- 目的：県内読書グループの相互の連絡と提携を図り、読書活動の推進、文化の向上・発展に資すること。
- 会員：162名(令和6年度末)。
県内の読書グループに所属する方や読書愛好家。
- 活動：スローガンは「伝えよう読書のよろこび、広げよう感動の輪」。読書推進大会・講演会などを開催している。
- 一問合せ—
県読連事務局(愛媛県立図書館内)
〒791-8057 松山市大可賀2丁目1番28号
アイテムえひめ3階スカイホール
TEL 089-941-1441 FAX 089-941-1454